

令和4年度 芸術科「音楽Ⅰ」シラバス

単位数	2単位	学科・学年・学級	普通科 1年選択者
教科書	MOUSA 1 (教育芸術社)	副教材等	三線、箏

1 学習の到達目標

<p>音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。</p> <p>(3) 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。</p>
--

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
第1学期	4	表現【歌唱】 ・斉唱	・Ave Maria ・Lemon	・歌唱の基礎となる姿勢や呼吸、発声について学習する。 ・曲想と歌詞との関わりを理解して、イメージをもって歌う。	レポート
	5				
	6				
	7	・合唱	・翼をください ・花	・リズムの特徴を理解し、曲にふさわしい表現を工夫する。 ・歌詞に描かれている情景を思い浮かべながら、調和の取れた合唱をする。	レポート 実技試験
		・指揮	・夏の思い出	・表情豊かな演奏を弾き出す指揮の仕方を工夫する。 ・歌詞と曲想との関わりを理解し、日本語の語感を生かして歌う。	レポート 実技試験
		表現【リズム】 ・ホッパイパーカッション	・Clap, Tap with CUPS ・Plymouth Rock	・身近なものを使ってリズムを演奏する。 ・リズムの重なり合いを意識して、音色や強弱を工夫して表現する。	レポート 実技試験
	表現【ソルフェージュ】 ・ソルフェージュ	・音符を読む練習 ・メロディを階名で歌う練習	・ト音譜表とヘ音譜表の音高を階名で読む。 ・音高や音程、リズムに気を付けて階名で歌う。	レポート 実技試験	
	鑑賞 ・ポピュラー音楽 ・西洋音楽	・歌謡曲からJ-POPへの100年 ・組曲《動物の謝肉祭》	・日本のポピュラー音楽の制作の歴史をたどり、自分と音楽との関わりについて考える。 ・それぞれの動物を表現するために、音楽の要素がどのように関わっているのかを考える。	レポート レポート	
学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
第2学期	9	表現【歌唱器楽】 ・沖縄音楽	・三線 ・安波節 ・海の声 ・ていんさぐぬ花	・三線の奏法を身に付け、奏法によって音色や響き、表情などの違いが生み出されることを理解して演奏する。 ・音色や旋律の特徴を感じ取り、三線の弾き歌いをする。	レポート 実技試験
	10				
	11				
	12	表現【器楽】 ・箏	・さくらさくら ・さくらさくら変奏曲	・箏の奏法を身に付け、奏法によって音色や響き、表情などの違いが生み出されることを理解して演奏する。 ・旋律のまとまりを感じ取りながら、様々な箏の奏法を生かして演奏する。	レポート 実技試験
		表現【ソルフェージュ】 ・ソルフェージュ	・リズムを打ちながらメロディを歌う練習	・リズムを打ちながら、メロディを歌う。	レポート 実技試験

		鑑賞 ・日本の伝統音楽 ・西洋音楽	・郷土の民謡と芸能 ・交響曲第9番ニ短調《合唱付き》	・全国各地に伝わる民謡や芸能に関心をもって、その表現の特徴を理解する。 ・グループごとに民謡を1つ選択し、調べ学習を行い、プレゼンテーションを行う。 ・作曲の手法について話し合ったり、主題の変化や比較をしたりすることで、楽曲の様々な主題とその構成について理解して鑑賞する。	レポート
学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
第3学期	1	表現【歌唱】	・Caro mio ben	・イタリア語の楽曲について、曲想と歌詞との関わりを理解し、曲にふさわしい発声や発音で歌う。	レポート 実技試験
	2	・斉唱 ・独唱			・あらすじを参考に、物語に描かれている登場人物や情景を思い浮かべ、それらがどのような音楽の要素によって表現されているのか考える。 ・総合芸術としてのオペラを鑑賞し、その魅力を味わう。
	3	鑑賞 ・西洋音楽 ・オペラの鑑賞	・バレエ音楽《火の鳥》組曲(1919年版) ・歌劇《カルメン》	レポート	

3 評価の観点

知識・技能	・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解を深めている。 ・創意工夫などを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作などで表している。
思考・判断・表現	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図を持ったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。
主体的に学習に取り組む態度	音や音楽、音楽文化と豊かに関わり主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

4 評価の方法

知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の3観点から総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ (確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など)

<p>・確かな学力を身につけるためのアドバイス</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 解説をしっかりと聞いたり、生徒同士で確認し合ったりするなど、コミュニケーションを大切にしてください。 (2) すべての分野において重要な土台になる“基礎”を大切にしてください。 (3) 授業ごとにレポート(授業内容、自分の課題や疑問など)を簡潔にまとめていきます。週一のペースで授業がありますので、前回の内容を振り返って、授業ごとにレベルアップしていけるように、上手く活用してください。 (4) 授業で扱う楽曲や演奏方法について、動画を配信する場合があります。自宅やすきま時間に授業や実技試験の予習・復習ができるようになりますので、上手く活用してください。 (5) 週に一回、2時間続きでの授業展開が基本となります。できるだけ欠席しないようにしてください。 (6) 音楽の中でも、得意・不得意分野があると思いますが、柔軟な心を持って積極的に取り組みましょう。 <p>・授業を受けるにあたって守って欲しい事項</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 授業は時間厳守です。休み時間中の早めの移動を心がけて下さい。 (2) 音楽室内は土足厳禁です。上履きは入口の棚に入れるか、棚の前に整然と並べてから入室してください。 (3) 音楽室の床はカーペットが張られていますので、缶・紙パックなどの蓋のできない飲み物の持ち込みは不可とします。 (4) スマートフォンやタブレットを使用して授業を行うことがありますので、しっかりと充電しておいてください。貴重品の管理のためにも、移動教室の際は携行してください。スマートフォンを持っていない生徒は、学校からタブレットの貸し出しをしていますので、相談してください。 (5) 器楽の授業の多くは、楽器をレンタルしています。楽器は大切に取扱ってください。

令和4年度 芸術科 「美術I」 シラバス

単位数	2 単位	学科・学年・学級	普通科 1年 選択者
教科書	高校生の美術1 (日文)	副教材等	指定なし

1 学習の到達目標

美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。

(2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。

(3) 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
第1学期	4	オリエンテーション	美術Iについて	<ul style="list-style-type: none"> • これからの美術の学習内容に関心を持ち、目的意識を明確にし、学習の意義や内容、評価について理解する。 	行動観察
	5	素描	鉛筆テクスチャー	<ul style="list-style-type: none"> • 鉛筆の使い方や塗り方を学習する。 • 筆圧・筆致・点、線、面の表現 • 明暗の段階の作り方やグラデーションの作り方を学習する。 • 対象物の捉え方や空間認識を学習する。 	行動観察 提出作品
	6	絵画 表現	静物デッサン	<ul style="list-style-type: none"> • ものの質感や存在感、美しさや迫力などを鉛筆でどこまで描けるのか、対象を深く観察して、良さや美しさを追求しながら表現する。 • あたり線・陰影・稜線・構図の取り方 • 線遠近法・筆圧・筆致 	行動観察
	7		色彩について学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> • 色の三属性や色相環を理解する。 • 補色・混色 • アクリル絵の具の使い方や塗り方を学習する。 	準備、後片付け 用具画材の清掃
	7		静物着彩	<ul style="list-style-type: none"> • ものの質感や存在感、美しさや迫力など、対象を深く観察して、良さや美しさを追求しながら、アクリル絵の具で色彩豊かに表現する。 • 陰影・稜線・空気遠近法・混色・筆致・筆使い • 絵の具、水の配分 	提出作品
学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
第2学期	9	デザイン 表現	色面分割肖像画	<ul style="list-style-type: none"> • 色彩の基礎のまとめ学習として雑誌等の印刷物の顔写真を、A3サイズに拡大コピー(白黒)にし、白から黒の明度段階を5色の有彩色に色分けし、アクリル絵の具で表現する。 • 基本的で一般的な色の性質、明度・彩度をよく理解し、正しい使い方を身につける。 • 同一調和・対比調和・類似調和 • リーズマン効果・トーン 	行動観察 準備、後片付け 用具画材の清掃
	10			<ul style="list-style-type: none"> • 人物のイメージに合う配色を考える。 • 無彩色の白黒コピーの画面を明度差によって分解し、それぞれの明度にあった有彩色を、色鉛筆で5色に直接塗り分ける 	選んできた写真 色彩分割作業 塗り分けコピー

		デザイン 表現	色面分割肖像画	<ul style="list-style-type: none"> ・5色に塗り分けた色と色との境目を、形状が見取れるように細部まで気を配り、境界線を2B鉛筆で描く。 ・明度の段階にあった有彩色5色をアクリル絵の具で再現し、丁寧な平塗りをする。 ・美しい平塗りの技法、アクリル絵の具の特性を理解する。 ・ベタ塗り・筆使い・絵の具、水の配分 	<p>行動観察</p> <p>準備、後片付け</p> <p>用具画材の清掃</p> <p>色彩分割作業</p> <p>塗り分けコピー</p> <p>トレース</p>
	11				
	12				
学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
第3学期	1	デザイン 表現	色面分割肖像画 つづき	<ul style="list-style-type: none"> ・背景を肖像が映える色で平塗りする。 ・各クラスで全員の完成作品を黒板に掲示し、1番良いと思う作品を選んで投票する。 ・他の生徒の作品のよさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫などを感じ取る。 	<p>行動観察</p> <p>準備、後片付け</p> <p>用具画材の清掃</p> <p>提出作品</p>
	2	デザイン 表現 絵画 表現	自分の教材ケースにイラストを描く	<p>本年度で学んだ色彩の学習、平塗り技法の学習のまとめとして、自由な発想で各自の教材ケースにイラストレーションを描く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美術Iで学んできたことを基に美しい仕上がりになるように平塗りで着彩する。 	<p>行動観察</p> <p>準備、後片付け</p> <p>用具画材の清掃</p>
	3				提出作品

3 評価の観点

知識・技能	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて表現方法を創意工夫し、表している。
思考・判断・表現	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考えとともに、主題を生成し発想や構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。
主体的に学習に取り組む態度	美術や美術文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。

4 評価の方法

<p>提出物、及び授業態度から、観点別（知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度）に総合的に評価する。</p>

5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など）

<p>美術にはさまざまな表現方法があります。美術Iでは基礎的なものの見方や表現方法について理解し、技術を習得する事に努めて下さい。</p>

令和4年度 芸術科 「書道Ⅰ」 シラバス

単位数	2単位	学科・学年・学級	普通科 1年 選択者
教科書	書Ⅰ（光村図書）	副教材等	書道用具一式

1 学習の到達目標

書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。

(2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい捉えたりすることができるようにする。

(3) 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
第1学期	4	書へのいざない	<ul style="list-style-type: none"> 書写から書道へ 用具・用材 姿勢・執筆法 	<ul style="list-style-type: none"> 書写と書道の違い、用具用材、姿勢・執筆法について理解する。 	ワークシート 分析 提出作品
	5	漢字の書（楷書）	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の変遷 楷書の成立と特徴 楷書の古典 唐の四大家 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の変遷を理解する。 楷書の成立と特徴を理解する。 それぞれの楷書古典を比較分析し、鑑賞を通して気づいたことを話し合う。 唐の四大家の人柄や政治的背景を理解する。 	ワークシート 分析 行動観察
	6		<ul style="list-style-type: none"> 孔子廟堂碑 九成宮醴泉銘 雁塔聖教序 顔氏家廟碑 	<ul style="list-style-type: none"> 古典が作られた経緯や書風、碑文の内容と大意、人物像について理解する。 古典の特徴を理解し、用筆や字形を意識して臨書する。 	ワークシート 分析 提出作品
	7		<ul style="list-style-type: none"> 古典を生かした創作 書道確認テスト 	<ul style="list-style-type: none"> 楷書古典を参考にしながら作品の構成を練り、書体や書風、全体構成を考え表現する。 1学期に学習した書道の表現と鑑賞に必要な知識のペーパーテストを行う。 	ワークシート 提出作品 ペーパーテスト
学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
第2学期	9	漢字の書（行書）	<ul style="list-style-type: none"> 行書の成立と特徴 行書の古典 	<ul style="list-style-type: none"> 行書の成立と特徴を理解する。 それぞれの行書古典を比較分析し、鑑賞を通して気づいたことを話し合う。 	ワークシート 分析 行動観察
	10		<ul style="list-style-type: none"> 蘭亭序 争坐位文稿 蜀素帖 風信帖 三筆・三跡の書 	<ul style="list-style-type: none"> 古典が作られた経緯や書風、碑文の内容と大意、人物像について理解する。 古典の特徴を理解し、用筆や字形を意識して臨書する。 三筆と三跡の書風と時代背景を理解する。 	ワークシート 分析 提出作品 ワークシート 分析
	11		<ul style="list-style-type: none"> 古典を生かした創作 生活の中の書 	<ul style="list-style-type: none"> 行書古典を参考にしながら、生活に生かせる作品の構想を練り、書体や書風、用具・用材、全体構成を考え表現する。 	ワークシート 分析 提出作品
	12	仮名の書	<ul style="list-style-type: none"> 仮名の成立と種類 仮名の筆使い 平仮名 変体仮名 書道確認テスト 	<ul style="list-style-type: none"> 日本で独自に使われる仮名の成立と字源について学習し、理解を深める。 仮名の基本的な用筆・運筆を理解する。 平仮名と変体仮名の単体を学習する。 2学期に学習した書道の表現と鑑賞に必要な知識のペーパーテストを行う。 	ワークシート 分析 ワークシート 分析 提出作品 ペーパーテスト

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
第3学期	1		<ul style="list-style-type: none"> ・連綿 ・蓬菜切 <ul style="list-style-type: none"> ・受け継がれる仮名の書 	<ul style="list-style-type: none"> ・仮名独自の連綿の方法を理解する。 ・古筆を鑑賞し、用筆法や連綿から生まれる美しさを理解する。 ・古筆の伝来や和歌の内容と大意、書風や料紙について理解する。 ・古筆の特徴を理解し、用筆や字形を意識して臨書する。 <ul style="list-style-type: none"> ・古筆がさまざまな形で受け継がれてきたことを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート分析 提出作品 <ul style="list-style-type: none"> ワークシート分析
	2	漢字仮名交じりの書	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字仮名交じりの書とは ・心に響く言葉を書く 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字仮名交じり書を鑑賞し、漢字と仮名の調和や自由な紙面構成などの表現を確認する。 ・書かれている言葉に着目して、言葉を表現するためにどのような工夫が見られるか、書体や書風、紙面構成、用具・用材の観点から学習する。 ・学習した漢字及び仮名を生かし、その表現を応用した漢字仮名交じりの書を創作する。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート分析 ワークシート分析 提出作品
	3		<ul style="list-style-type: none"> ・書道確認テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・3学期に学習した書道の表現と鑑賞に必要な知識のペーパーテストを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ペーパーテスト

3 評価の観点

知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・書の表現の方法や形式、書表現の多様性について、書の創造的活動を通して理解を深めている。 ・書の伝統に基づき、作品を効果的・創造的に表現するために必要な技能を身に付け、表している。
思考・判断・表現	<p>書よさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書之美を味わい深く捉えたりしている。</p>
主体的に学習に取り組む態度	<p>書の伝統と文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。</p>

4 評価の方法

「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点から総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など）

- ・何よりも大切なことは、対象（作品・手本）を「よく味わい、観察する」ことです。先入観を持たず、素直な気持ちで作品に向き合うことです。
- ・古典の臨書（古い時代の名品をよく見て書くこと）を通して、表現技法、鑑賞力、形の取り方等の理論を学びます。特に表現技法については、主体的に問題意識を持って練習することが大切です。
- ・作者や時代背景、用具や用材、紙面構成等、常に幅広い要素について考えることが大切です。
- ・授業はチャイムと同時に始まりますので、用具を準備して着席しててください。
- ・教科書、用具等は大切に扱きましょう。個人の所有物には記名してください。
- ・作品は、毎時間ファイルにきちんと整理しておきましょう。
- ・授業には書道用具だけでなく、筆記用具も必ず持参してください。